



アカデミック・リンク  
教育・学修支援専門職養成プログラム

ACADEMIC LINK PROFESSIONAL STAFF  
DEVELOPMENT PROGRAM  
for EDUCATIONAL and LEARNING SUPPORT

Academic Link

千葉大学アカデミック・リンク・センター

教育関係共同利用拠点

「新たな時代の大学教育を創造する『教育・学修支援専門職』養成拠点」

## ごあいさつ

現在、私達は、グローバル化や情報化の進展、少子高齢化などの社会の急激な変化に伴う予測困難な時代を生きています。社会が大学に求める役割は多様化・高度化し、大学教育が果たすべき役割は質的に転換したとされています。このような状況の下、千葉大学は、知識基盤社会の中で生涯学び続ける力を備えた「考える学生の創造」を目的として、2011年4月にアカデミック・リンク・センターを設置しました。本センターは、教育活動・学習支援・コンテンツの近接による教育・学習支援の高度化という新しい概念「アカデミック・リンク」を提示し、様々な教育・学習支援の取り組みを進めてきました。



2015年7月には、これまでの活動を発展させて、教育・学修支援の専門性を備えた人材養成に取り組むこととし、文部科学大臣により教育関係共同利用拠点「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点《教育・学修支援専門職養成》」として認定を受けました。これを機会に「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」(Academic Link Professional Staff Development Program for Educational and Learning Support:ALPSプログラム)を開始しました。教育関係共同利用拠点としては、その後も繰り返し認定を受け、現在は2027年3月末までの期間となっています。

ALPSプログラムは、これからの大学に必要とされる新たな専門的職員として、「高度な実践力」と「体系化された関連知見」と「新しい教育の開発・企画力」を有する教育・学修支援専門職の確立と養成を行うことを目的とした研修プログラムです。これまで、研修会として年5回のALPSセミナーと年1回のALPSシンポジウムを開催するとともに、大学での教育・学修支援の専門性に必要な知識・能力を7つの領域、25の項目、180の行動特性から構成される能力項目と、領域ごとの水準を4段階で記述的に示した能力ルーブリックからなる「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック」を開発して、「教育・学修支援専門職」の職能を体系化・可視化するとともに、この能力項目・能力ルーブリックに基づいた体系的な研修プログラム(履修証明プログラム)を構築しました。2022年度には、ポストコロナの新しい教育の状況を反映させるべく、この能力項目・ルーブリックの見直しを行いました。その結果を踏まえ、2017年度から本格実施してきた履修証明プログラムについて、2023年度からは従来の枠組みのプログラムを残しつつも内容を一部変更するとともに、これと並行して従来よりも時間数が少ないコースを創設し、より多くの方に受講していただけるよう工夫しました。

「学生の学びをどのように支援するか」は、大学教育の重要な課題であるにもかかわらず、各専門分野や各大学で事情が異なるという理由から制度化・体系化が難しく、長い間、職員の経験的に培われた知識やスキルに委ねられてきました。2022年10月に施行された改正大学設置基準においては、教育研究実施組織が教育の責任を担うことになり、また指導補助者という名称で教育・学修支援者が規定されました。指導補助者にはTAやSA等が想定されていますが、職員がこの役割を担うことも当然考えられ、またその研修は各大学に委ねられています。

ALPSプログラムはこのような状況にも対応し、教育・学修支援の専門性の向上を目指す全国の大学に活用され、ひいては我が国の大学教育の質的転換と高度化の促進に資するものとなるよう、最善を尽くしたいと思います。

千葉大学アカデミック・リンク・センター長  
竹内 比呂也

### 【アカデミック・リンク・センターとは】

アカデミック・リンクは、千葉大学において「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成するために、附属図書館、総合メディア基盤センター(現・情報戦略機構)、普遍教育センター(現・全学教育センター)が協力して2011年4月に立ち上げた、教育・学習のためのコンセプトです。アカデミック・リンク・センターは、「『学習とコンテンツの近接』による能動的学習」の実現をめざし、教育支援・学習支援に取り組んでいます。

### 【教育関係共同利用拠点とは】

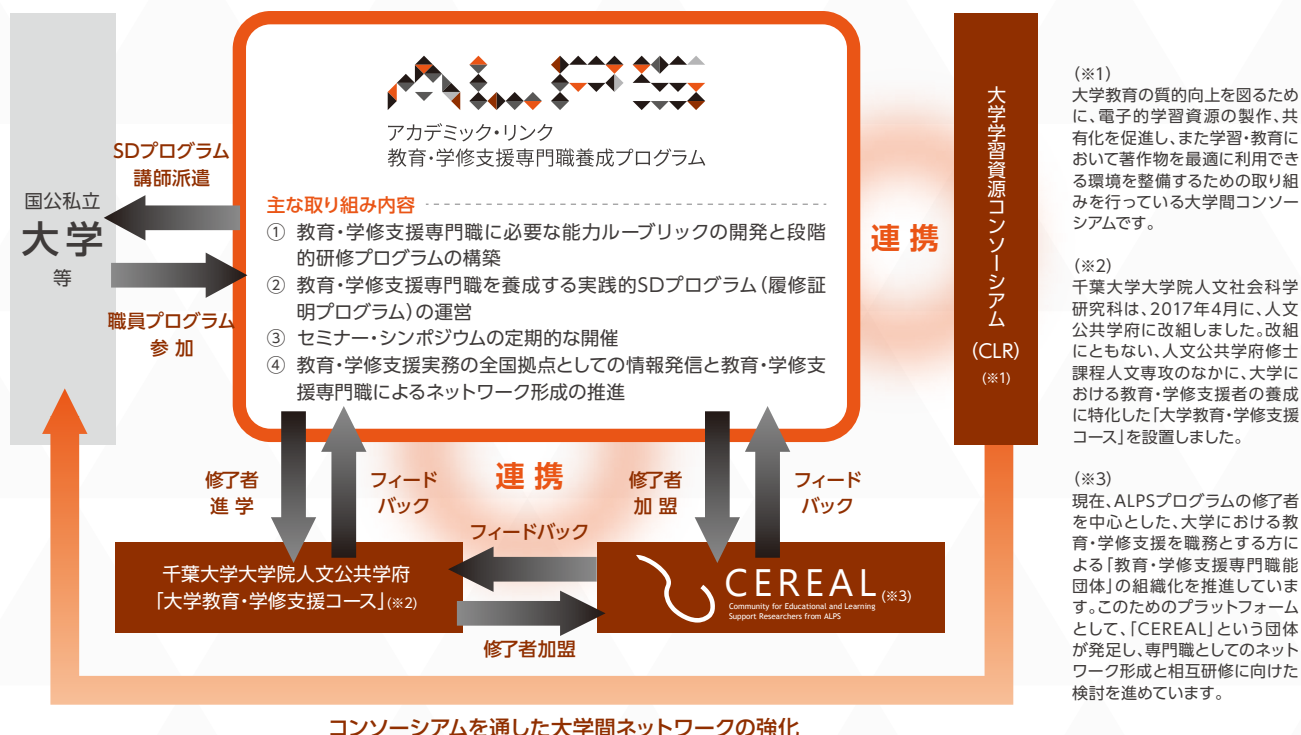
多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくためには、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進し、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開することが必要となっています。このため文部科学省は、2009年9月に文部科学大臣による「教育関係共同利用拠点」の認定制度を創設し、国公立大学を通じた教育関係共同利用拠点の整備が進められています。



## ▲ ALPS(アカデミック・リンク 教育・学修支援専門職養成) プログラムとは

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、2015年7月に教育関係共同利用拠点の認定を受けたのち、拠点事業で取り組む活動を「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」(Academic Link Professional Staff Development Program for Educational and Learning Support: ALPSプログラム)と称し、大学における新しい専門的職員である「教育・学修支援専門職」の確立に向けて取り組んでいます。その内容として、大学の教育・学修支援の専門性を体系化・可視化するために「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック」の開発に取り組むとともに、教育・学修支援の高度化を図るための研修会(セミナー・シンポジウム)を開催してきました。さらに、実践的SDプログラムとして履修証明書を発行する体系的な教育プログラムを運営しており、2017年度のプログラム開設以来、約90名が修了しています。加えて、プログラム修了生が中心となり、教育・学修支援専門職能団体CEREALが発足し、研修会の開催や紀要の刊行を通じて教育・学修支援専門職のネットワーク形成を推進しています。

アカデミック・リンク・センターが養成する「教育・学修支援専門職」は、我が国の高等教育機関における教育・学修の質的改善を図るために、教員と協働し、教育・学修においてこれまで以上に重要な役割を担うことが求められている「専門的職員」のあり方に対する千葉大学による具体的提案です。



## ▲ 教育・学修支援の専門性に必要な能力項目第2版(2023年)

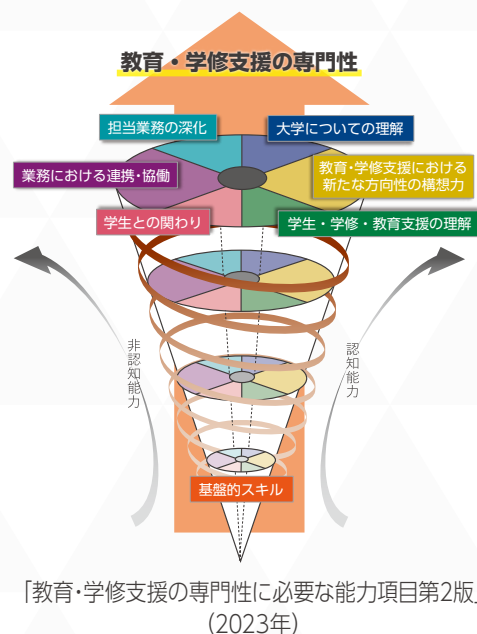
教育・学修支援の専門性を向上させていくためには、目指すべき具体的な能力指標が必要です。アカデミック・リンク・センターでは、新たな時代の高等教育における「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」を開発しました。

「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目第2版」(2023年)は、「大学について理解を深める」「学生・学修・教育支援の理解を深める」「担当業務を深める」「学生と関わる」「業務において連携・協働する」「教育・学修支援の新たな方向性を構想する」の6項目と「基盤的スキル」から構成されます。

ALPSプログラムでは、「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」を育成していくことを目的の一つとしています。このプログラムに参加することを通じて6つの能力項目についての知識、手法、応用力を身につけるとともに、教育・学修支援の実践との往還によって、教育・学修支援の専門性を高めていきます。

### 【基盤的スキル】

- ・説明できる力
- ・文章作成能力
- ・物事を広くみる力
- ・メタ的な能力(社会人としてのコンピテンシー)
- ・クリティカルシンキング
- ・語学



## ▲ 教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック第2版(2023年)

「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック第2版」(2023年)は、大学における教育・学修支援の専門性の向上を実現するためにその能力指標を、段階を踏まえて体系化・可視化することを目指して、アカデミック・リンク・センターが開発したものです。これまでOJTを中心に職務能力が形成されてきた学務・教務担当の大学職員の役割を「教育・学修支援専門職」として高度化するとともに、学務・教務担当とは区分されがちな図書館職員などの関係職員が教育・学修支援専門職として複合的な専門性を持ち、学生の学修支援にもその能力を発揮することを目的としています。教員の教育能力向上にも役立つかもしれません。

「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目第2版」(2023年)「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック第2版」(2023年)は、2021年から2022年までにアカデミック・リンク・センターが実施した255件の文献調査、

目 的	S 知識やスキルを発展させ、指導することができる	A 知識やスキルを実践の場の問題
<b>大学について理解を深める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育・社会・教育に関する理解</li> <li>所属大学についての理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育の現状について批判的に分析・検討し、所属大学における教育のあり方について具体的な改善案を策定し、実践の場で提案することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育を取り巻く社会・経済情勢や大学の教育の現状について批判的に構造的な問題を特定し、解決策を提案することができる。</li> </ul>
<b>学生・学修・教育支援の理解を深める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の現状理解</li> <li>教育内容の把握</li> <li>学生支援・学修支援・教育支援の設計と実施</li> <li>学生支援・学修支援・教育支援活動の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の支援ニーズを調査し、学生のニーズにあわせた学修支援を設計・開発し、効果的に実施することができる。</li> <li>様々な教育領域における教育上の最新の改善課題、論点、教育方法を把握し、個別の授業にあわせた教育支援に活用することができる。</li> <li>学生支援・学修支援・教育支援の結果を検証し、評価、改善することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の学生に応じた学生支援・学修支援の方法を選定し、必要な支援を設計、実施することができる。</li> <li>所属大学全体の教育課程の概要や最新の先進的な取り組み事例を参考に、教育支援を具体的に提案することができる。</li> </ul>
<b>担当業務を深める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当業務に関する知識</li> <li>情報収集・整理・分析・発信</li> <li>課題の設定と問題解決</li> <li>様々な経験とその活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属箇所における課題を発見し、改善することを目的に、課題設定、データ収集・分析、対応策の立案、実施を自律的に実現することができる。</li> <li>担当業務に関連する新たな取り組みを企画立案し、周囲の協力を得て、実行することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内外の先進的な取り組み事例を参考に、業務に活用することができる。</li> <li>担当業務に関連する情報やデータを整理・分析し、業務上の課題や問題を発見し、提案することができる。</li> <li>担当業務における課題や問題を特定し、これまでに経験した業務内外の知識やスキルを活用して、解決策を提案することができる。</li> </ul>
<b>学生と関わる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生対応に関する知識</li> <li>学生対応への基本的姿勢・態度</li> <li>多様な学生への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の対応に関わる学内外の利用可能な資源の現状について批判的に分析・検討を行い、より効果的な支援の体制・あり方を、実現可能性を含めて、企画・設計し、構築するなど、学生の対応について指導的役割を果たすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生対応に関する国内外の様々な事例や最新の動向を把握し、個々の学生のケースに適応することができる。</li> <li>学生の問題や困難を解決するために、学内外の様々な資源やアカデミック・アドバイジングの知識を活用し、学内外の利用可能な資源を活用して、支援を行うことができる。</li> </ul>
<b>業務において連携・協働する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>チームワーク</li> <li>人的ネットワークの構築</li> <li>教職員との連携・協働</li> <li>ステークホルダーとの連携・協働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内外の組織横断的な、あるいは困難な担当業務について、リスクや不測の事態も想定し、先を見通した計画を立て主導的に実行することができる。</li> <li>他者との連携や協働して業務を行うことの強みを活かして、高い成果を生み出すことができる。</li> <li>自主的に研修会やシンポジウム等に参加し、情報交換の機会を通じて学内外に幅広い人的ネットワークを形成しており、人的ネットワークを活用することで、様々な情報を収集し、所属大学の業務改善・開発に生かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当業務の進め方を絶えず見直し、改善に取り組むことができる。</li> <li>業務を遂行するにあたり、率先して他者の強みや弱みなどの特徴を把握し、業務の効率と効果を高めることができる。</li> <li>学内に人的ネットワークを形成し、関係者と協働すれば効果的に業務を進められ、必要に応じて、関係する他者との連携し、調整しながら業務をやり遂げることができる。</li> </ul>
<b>教育・学修支援の新たな方向性を構想する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>先導的・先進的な教育支援・学修支援の構想力</li> <li>教育・学修支援での新たなテクノロジーの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな制度や先端のテクノロジーを用いた先導的・先進的な教育・学修支援や教育活動の構想について、指導的役割を果たしながら、実現することができる。</li> <li>学外や学内の他箇所から新たな教育・学修支援や教育活動の構想について助言を求められた場合、適切な助言を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属大学における教育・学修支援の現状を把握し、新たな制度や先端のテクノロジーを用いて、先導的・先進的な教育・学修支援を構想することができる。</li> </ul>



11大学21名の現職大学職員を対象とするインタビュー調査、1,335名の現職大学職員へのアンケート調査をもとに作成しました。また、海外の先進事例として、米国の学修支援に関する専門職団体であるACPA College Student Educators International と NASPA:Student Affairs Administrators in Higher Education による学修支援専門職のコンピテンシー基準である“Professional Competency Areas for Student Affairs Educators” (2015年8月)を参照することで、国際的に通用する水準の確保に努めています。

さらに、各目的に含まれる内容は25の項目と190の行動特性で示しています。行動特性は、アカデミック・リンク・センターのウェブサイトからご覧ください。

解決に応用できる	B 身に付けた知識を説明できる	C 知識として身に付けている
情勢や政策動向から、所属的に分析・検討し、組織上策や改善策を提示すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学で教育研究されている学問領域全体の体系性や内容、構造についての理解に基づき、所属大学の教育の特徴や個々の施策・規則の意義や課題について説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の大学に関する歴史や制度、法規、政策、取り巻く環境などについて基本的な理解を示すとともに、その中で所属大学の理念や特色、位置づけを把握している。</li> <li>学生や教育に関わる一般的な知識（学生の学習や発達、教育課程や教育方法など）を有している。</li> <li>所属大学の学生や教育の特徴を把握している。</li> </ul>
学修支援に関する内容・方を提案することができる。 要を理解した上で、学内外に、個別の授業に対してとができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が抱える課題や困難を理解し、個々人の学生生活や学習上の課題を踏まえた学生支援・学修支援について説明することができる。</li> <li>学修支援に必要な教育領域における教育上の最新の改善課題、論点、教育方法を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育支援や学修支援の担当者に必要な法令遵守の意識、倫理観を身に付けている。</li> <li>学生の多様性を理解し、個々の学生に応じた様々な学生支援・学修支援があることを認識している。</li> <li>学修支援に必要な教育課程の基本的枠組み、個々の授業が扱っている教育内容の概要、教育方法を把握している。</li> </ul>
例を参考にし、担当業務にデータを収集、整理、分析をし見出し、解決策や改善策を改善するために、必要に経験を活用することがで	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当業務に関する学内外の最新動向・情報やデータを収集、整理、分析し、担当業務との関連性を説明することができる。</li> <li>担当業務についての予算的裏付けや会計上の位置づけを説明することができる。</li> <li>これまでの業務内外の経験を現在の担当業務に活かしており、その関連性を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学における担当業務を行うために必要な知識を有している。</li> <li>学生や教育など業務に関する情報の収集、整理、保管に関する法令や規則、倫理を理解している。</li> <li>担当業務を行う上で必要な情報収集や分析方法を身に付けている。</li> </ul>
な事例を参照し、必要に適用し、学生対応に活用すめ、カウンセリングやアカスキル、関係法令の知識、出し、効果的に対応するこ	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングやアカデミック・アドバイジングの基本的な知識に基づき、留学生を含む多様な学生や困難を抱えた学生に対する効果的なコミュニケーションの在り方を説明できる。</li> <li>問題や困難を抱える学生に対応するために、所属大学における保護者との関わり方、医療機関等の学内外の利用可能な資源の現状、関係法令について説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が入学から卒業までに直面する問題や困難を理解し、問題や困難を抱える学生に対応や支援を行う上で必要な基本的知識（メンタルヘルス、カウンセリング、アカデミック・アドバイジング、関係法令、学内外の利用可能な資源など）を身に付けている。</li> <li>学生の立場で考えることの重要性を理解しているとともに、学生との適切な心理的距離感を保つことを意識している。</li> <li>多様な学生層へのコミュニケーション方法を理解している。</li> </ul>
し、担当業務の効率化やて取り組むとともに、協働性を理解し、業務への自ど、チームを活性化し、業でできる。 するとともに、どのような務が遂行できるか把握し教員や他箇所の職員等と遂げることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当業務の意義や大学全体から見た役割を理解しており、職務に対して意欲的に取り組むことができる。</li> <li>チームで業務を進めるにあたり、自分の考えを伝えつつ、他者との合意形成を図り、協動的に業務を推進することができる。</li> <li>大学教員の仕事や役割についての理解に基づき、業務で関わる教員の特性を把握し、他箇所の職員等との連携を含めて、協働する体制を構築するための働き掛けを行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属大学の方針や業務の流れを把握し、正確に業務を行うため、学内規程等を自分で調べたり、必要に応じて関係者に確認することの重要性を理解している。</li> <li>業務を遂行する上で困難が生じた場合は、周りに助けを求めるなど、チームワークを意識している。</li> <li>担当業務以外の業務や学内の取り組みについて関心を持ち、所属大学内の他箇所の職員と関わる機会に積極的に参加するなど、開かれた態度や行動を示す。</li> </ul>
援や教育活動を効果的枠組み、先端のテクノロジー教育・学修支援や教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育の新たな制度について説明することができる。</li> <li>教育・学修支援においてテクノロジーを活用する上で遵守すべき関係法令や倫理について説明することができる。</li> <li>教育・学修支援や教育活動において使用されているテクノロジーの仕組みについて説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育の新たな制度（例えばマイクロクレデンシャルなど）を理解している。</li> <li>教育・学修支援においてテクノロジーを活用する上で必要な法令の遵守の意識、情報倫理観を身に付けている。</li> <li>教育・学修支援や教育活動において使用されている先端のテクノロジー（デジタル認証やVRなど）を理解している。</li> </ul>

## ▲ ALPS履修証明プログラム

### ■ ALPS履修証明プログラムの全体構成

ALPSプログラムでは、教育・学修支援の専門性を高めるための体系的な研修プログラムとして、2017年度から履修証明プログラムを実施しています（ALPS履修証明プログラム）。2023年度から、120時間で構成される「ALPS履修証明プログラム」（120時間）に加え、各自の関心に応じ、基盤的テーマの「コア・モジュール」と、「教育支援モジュール」又は「学修支援モジュール」のいずれかを履修できる、「ALPS履修証明プログラムショートコースA（教育支援）」「同B（学修支援）」（各64時間）を開設しました。

ALPS履修証明プログラム（120時間）やALPS履修証明プログラム各ショートコース（64時間）は「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック（2023年）」の6つの目的に対応するかたちで、研修プログラムとして設計されています。

各プログラム・コースを修了した方は、学校教育法第105条の規定に基づき、プログラムを修了したことを証明する履修証明書を発行します。なお、単位の授与はありません。

#### プログラム・コースの特徴

ALPS 履修証明プログラム（120時間）	ALPS 履修証明プログラム各ショートコース（64時間）
● すべてのテーマを履修し、網羅的な知識を習得	● 各自の関心に応じた知識を習得し、専門性を高める
● 能力ルーブリックA段階まで学べる	● 能力ルーブリックB段階まで学べる
● 対面授業とオンラインミーティングでグループ研究を展開	● すべてオンラインで履修OK
● 担当教員の指導のもと、個人課題をじっくり探求	● 同時双方向型授業で履修生同士学びを深める

#### ALPS履修証明プログラム（120時間）・ALPS履修証明プログラム各ショートコース（64時間）開講テーマ

テーマ分類（授業形式）	モジュール	テーマ名	プログラム・コース別に履修が必要なテーマ		
			ALPS 120時間	教育支援 64時間	学修支援 64時間
基盤的テーマ （遠隔授業）	コア	1) 高等教育をめぐる政策動向	○	○	○
		2) 自校理解	○	○	○
		3) 学生・学修の調査と分析	○	○	○
		4) 学生の抱える困難の理解と支援	○	○	○
		5) 高等教育の国際化対応	○	○	○
	教育支援	6) 教育・学修におけるDX	○	○	
		7) 教材開発支援と著作権	○	○	
		8) 教育プログラムの設計と評価	○	○	
	学修支援	9) アカデミック・アドバイジング	○		○
		10) 学習環境の設計と評価	○		○
		11) 教育・学修の方法と学修支援サービス	○		○
総合的テーマ （遠隔授業＋対面授業）		12) 教育・学修支援マネジメント（1）	○		
		13) 教育・学修支援マネジメント（2）	○		
総括的テーマ （遠隔授業＋対面授業）		14) プロジェクト研究・実習（1）	○		
		15) プロジェクト研究・実習（2）	○		

※追加的内容として、ALPSセミナー・ALPSシンポジウム等への参加

#### 〔履修証明プログラムとは〕

履修証明プログラムとは、学校教育法105条に基づく仕組みであり、大学の積極的な社会貢献を促進するために、社会人等を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を特別の課程として開設し、その修了者に対して履修証明書を交付するものです。文部科学省の規定により、60時間以上の学習プログラムで構成されることとなっています。

ALPS履修証明プログラムは、文部科学大臣による「職業実践力育成プログラム」（BP）の認定を受けています。

ALPS履修証明プログラムは、厚生労働省「教育訓練給付制度」の専門実践教育訓練給付対象講座です。





## カリキュラムマップ

ALPS履修証明プログラムの15テーマと「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック第2版」(2023年)の対応関係をカリキュラムマップとして示し、各テーマを通じてどのような能力を身に付けることができるのかを可視化しました。プログラムを受講することで、体系的に教育・学修支援の専門的能力の向上を目指します。

各テーマが、ルーブリックの各目的のS・A・B・Cの段階のどこに対応するかを示したもの		プログラム15テーマ														
		基盤的テーマ											総合的 テーマ	総括的 テーマ		
		コア					教育支援		学修支援							
		高等教育をめぐる政策動向	自校理解	学生・学修の調査と分析	学生の抱える困難の理解と支援	高等教育の国際化対応	教育・学修におけるDX	教材開発支援と著作権	教育プログラムの設計と評価	アカデミック・アドバイザー	学習環境の設計と評価	教育・学修の方法と学修支援サービス	教育・学修支援マネジメント(1)	教育・学修支援マネジメント(2)	プロジェクト研究・実習(1)	プロジェクト研究・実習(2)
能力 ルーブリック における目的	大学について理解を深める ・高等教育・社会・教育に関する理解 ・所属大学についての理解	C	B	C	－	C	－	－	B	C	C	B	C	B	A	A
	学生・学修・教育支援の理解を深める ・学生の現状理解 ・教育内容の把握 ・学生支援・学修支援・教育支援の設計と実施 ・学生支援・学修支援・教育支援活動の改善	C	－	B	B	C	B	B	B	B	B	B	C	B	A	A
	担当業務を深める ・担当業務に関する知識 ・情報収集・整理・分析・発信 ・課題の設定と問題解決 ・様々な経験とその活用	C	C	C	C	C	C	B	C	－	C	－	C	B	A	A
	学生と関わる ・学生対応に関する知識 ・学生対応への基本的姿勢・態度 ・多様な学生への対応	－	－	－	B	B	C	－	－	B	－	－	C	B	A	A
	業務において連携・協働する ・チームワーク ・人的ネットワークの構築 ・教職員との連携・協働 ・ステークホルダーとの連携・協働	B	C	C	C	C	B	C	B	B	B	B	C	B	A	A
	教育・学修支援の新たな方向性を構想する ・先導的・先進的な学修支援・教育支援の構想力 ・教育・学修支援での新たなテクノロジーの活用	－	－	C	－	－	B	B	C	－	－	C	C	B	A	A

## 運営委員会

アカデミック・リンク・センターには、ALPSプログラムを運営するために「教育・学修支援専門職養成部門運営委員会」を設置しています。この委員会は「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程【平成21年8月20日 文部科学省告示第155号】第2条第3項」に基づくものとして、拠点事業の運営と教育・学修支援専門職養成部門の活動に関する重要事項を審議するものです。

山田 礼子 (同志社大学社会学部 教授)	杉谷 祐美子 (青山学院大学教育人間科学部 教授)	篠田 道夫 (桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科 前教授、日本福祉大学 前学務参与)
工藤 潤 (中央大学 法学部・教育力研究開発機構 特任教授)	織田 雄一 (岡山大学 学術研究院共通教育・グローバル領域 グローバル人材育成院 教授)	池田 輝司 (公益財団法人 日本国際教育支援協会 専務理事)
銭谷 真美 (公益財団法人 新国立劇場運営財団 理事長)	伊勢崎 奈津子 (立正大学 学長室 部長、CEREAL 会長)	竹内 比呂也 (千葉大学 副学長、附属図書館長、アカデミック・リンク・センター長)
檜垣 泰彦 (千葉大学アカデミック・リンク・センター長代理、特任教授)	國本 千裕 (千葉大学アカデミック・リンク・センター 副センター長)	森 一郎 (千葉大学アカデミック・リンク・センター 副センター長、附属図書館 事務部長)
白川 優治 (千葉大学アカデミック・リンク・センター 兼務教員、国際学術研究院 准教授)		

## ▲ ALPSセミナー／ALPSシンポジウム

ALPSプログラムでは、教育・学修支援に関するトピカルなテーマや実践事例を取り上げる公開イベントとして、ALPSセミナー／ALPSシンポジウムを開催しています。年5回のALPSセミナーと年1回のALPSシンポジウムを通じて、教育・学修支援の新しい動向や専門的知見を提供します。



### アカデミック・リンク・センター 教育・学習支援の 取り組み

アカデミック・リンク・センターは、これまで、人的支援、学習環境整備、コンテンツの充実という3つのコンセプトをもとに、学生に対する分野別学習相談・学習支援、授業等の録画・配信支援、デジタル教材の作成支援など、千葉大学学内での教育・学習支援に取り組んできました。また、学生の学習行動に関する調査・分析、公開セミナーによる先駆的实践の紹介、図書館内の職員研修なども独自に実施しています。

ALPSプログラムでは、アカデミック・リンク・センターのこれらの取り組みも踏まえつつ、各大学の先駆的な実践事例も学ぶ内容を構築していきます。



【職員研修】

職員の専門性を高めるために、研修を実施しています



【レファレンスサービス】

職員が資料や文献探しのお手伝いをします



【コンテンツ制作室】

教材、授業課題、サークルなどでコンテンツ制作を行うためのデジタル環境を提供しています



【コンテンツスタジオ「ひかり」】

録画設備を備えた教室です



【セミナールーム「まなび」】

演習やワークショップ形式の授業を行うために、可動式の机や椅子、部屋の前には「壁一面のホワイトボード」を備えています



【プレゼンテーションスペース】

セミナーや講演会用のオープンなスペースです